

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2013年9月NO.32

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“遊び”

6

ゴム跳び

「頭の高さまで高く跳べたでしょ！」学校の休み時間に校庭で。

写真:センター50(コタバト州キダパワン)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

★ 特集 ★
新しい学年もがんばる!
★ ★ ★ ★ ★

特集

新しい学年もがんばる!

フィリピンでは、3月末に学年が終わり、4～5月は夏休みで、6月から新学年が始まります。一番気温が高い夏休みの間、センターのプログラムに参加したり、家の手伝いや自習をして過ごしたチャイルドたちは、6月から新たな気持ちで新学年をスタートさせます。今回の特集は、ミンダナオ島、キダパワン*1にある協力センター*2の地域の、新学年の様子をご紹介します。（支援者サービスグループ 伊藤 久平）

新学年が始まる日。 チャイルド、アリヤの一日。

2013年6月3日、小学校5年生に進級したチャイルドのアリヤが楽しみにしていた新学年が始まりました。アリヤは、いつものように朝早く起きて家の周りを掃除して、朝ごはんを食べました。身支度をして、協力



アリヤのお弁当。
ごはんと鳥の唐揚げ
2切れだけ。

センターから支給されたばかりの文房具とお弁当を入れたカバンを持って、6時半に家を出ました。途中で友だちと合流。歩いて20分ほどで学校に到着です。



教室の前で。
アリヤは5年A組マホガニー組です。

学校に着くとアリヤは、友だちと一緒に校庭を掃除します。7時15分に鐘が鳴り、生徒全員が校庭に整列して、朝礼が始まります。新学年のはじめに、校長先生からの挨拶があるところは日本の小学校と変わりません。校長先生は、「新しい学年が始まって、生徒の皆さんが元気に学校に戻ってきてくれてうれしく思います。今年度も一生けんめい勉強をしましょう」と、話しました。こうして新学年が始まりましたが、この日を迎えるためには様々な準備がありました。



校庭で朝礼



新5年生になって、皆、張り切っています。

*1 土地の言葉で「山の泉」という意味。フィリピンで一番高い山、アポ山（標高2,954m）の麓にあり、自然がとても豊かなところですが、しかし、キダパワンのあるコタバト州は、長い間、政府軍とモロ・イスラム解放戦線（MILF）が戦闘状態にありました。そのため治安上の問題があり日本人が訪問することはこれまでできませんでした。2012年10月に両者間で和平への合意に達し、ようやくスタッフの訪問が可能になりました。
*2 センター番号50/Children's Education and Welfare Assistance。2004年に支援開始。現在150名のチャイルドが在籍しています。

学校に通うために必要なコト

新学年は6月から始まりますが、準備は夏休み中の5月から始まっています。まず、フィリピンでは子どもたちが入学・進級して、学校に通うためには、学校に登録*する必要があります。登録には、小学校1年生に入学する場合は出生証明書が必要です。2年生以降の場合は、前年度の成績表と前年度の納付金(後述)の支払い証明書が必要になります。その他にも……



学校に登録に来た親たちと、書類を一つひとつチェックする校長。その様子を、親たちは心配そうに見守ります。

[子どもたちが約束するコト]

日本の学校にはないものとして、生徒と学校(校長、担任)、親と校長が署名する2つの**同意書**があります。

生徒と学校との同意書には、以下の項目があります。

- 1 クラスに毎日遅刻せずに出席すること
- 2 クラスの途中で帰宅しないこと
- 3 友だちと喧嘩をしないこと
- 4 勉強にベストをつくすこと
- 5 制服を着てIDカードを付けること
- 6 学校の活動に参加すること
- 7 学校の物品を大切にすること
- 8 理由なく休まないこと
- 9 自分の能力を学校のためにも使うこと

[親たちが約束するコト]

親と校長との同意書の項目は、以下です。

- 1 親として子どもを指導し、なんでも学校の責任にしないこと
- 2 学用品など必要なものを子どもに与えること
- 3 納付金を払うこと
- 4 ブリガダ・エスクエラ(後述)や保護者の総会に参加すること



学校・生徒・保護者の間で取り交わす同意書。
上部が生徒、校長、担任。下部が保護者、校長の同意書になっています。

さらに、登録には、「Brigada Eskwela(ブリガダ・エスクエラ)」と呼ばれるプログラムへの「参加証明書」も提出する必要があります。これはフィリピン政府教育省が推進しているプログラムで、学校教育の大切さを地域の人々に理解してもらうことや、主に親たちに児童生徒の教育環境改善のために参加してもらうことを目的としています。親たちは、新学年が始まる前に、夏の間使われていなかった教室を掃除したり、椅子や机の修理やペンキ塗りをしたりする労働奉仕をします。この活動に参加した親たちには「参加証明書」が渡されます。カライサン小学校の



ブリガダ・エスクエラを呼びかけるポスター



親たちによってきれいに清掃された校庭

マウリシア校長先生は、チャイルドの親たちは、このプログラムにとっても協力的です、と言います。アリヤの両親も掃除などに参加して証明書をもらいました。「子どもたちがよりよい環境で勉強をすることは大切なことです。だからブリガダ・エスクエラには積極的に参加しています」とお母さんは話してくれました。

* 協力センターの支援地域にある公立のカライサン小学校は、今年は5月27日から登録の受付を開始しました。全校生徒336名のうち48名がチャイルドです。

協力センターがするコト

スポンサーシップ・プログラムの支援の一つに学用品の支給があります。新学年が始まるこの時期に、協力センターは学用品を支給しています。チャイルドや親たちは、前年度の成績表の写し、支援センターと親・チャイルドとの同意書*1と、住民組織*2のメンバー会費(25ペソ=約50円)を提出し、学用品を受け取ります。

フィリピンの公立小学校とハイスクールでは、学費の支払いは法律で求められていないのですが、「納付金」*3という名目で、生徒会費、光熱費、テストの紙代などは親が負担する必要があります。また、納付金を納めた上に学用品、制服、靴、傘、レインコートなどを親が購入しなくてはなりません。厳しい経済状況にあるチャイルドの家庭は、プログラムによって学用品や制服が支給されるため、その負担が軽減されます。

センター長のエルリンダさんは次のように話してくれました。「チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を受けるチャイルドたちは本当に幸せです。スポンサーの方々のご支援で学校に通うことができるからです。この地域では、収入が少なく、子どもにも仕事をさせて、学校を休ませる親も少なくありません。でも学用品などの

教育関連費用の支援を受けることによって、親は安心して子どもを学校に通わせることができます。」

学校、親、センターがチャイルドたちのために様々な準備を整え、アリヤをはじめとするチャイルドたちはこれから始まる1年を未来の夢に向かって勉強をすることができます。



大学の学部長の重責をおっているが、子どもと地域の人たちと一緒に働くことが一番好きだと言うセンター長のエルリンダさん

- *1 センターのプログラムに積極的に参加すること、問題が起きた場合はすぐにセンタースタッフに連絡すること、などが項目に含まれています。
- *2 センターの活動する地域には現在、親たちによって作られた2つの住民組織があります。
- *3 生徒1名当たり、年間で約600ペソ(約1,500円)の負担が親に求められます。



学用品を受け取るために集会場に集まったチャイルドと親たち



学用品を受け取ってにっこり。小学校2年生のチャイルドと親たち



配布された学用品の一部

5年生になったら、もっとがんばる!

新しい学年の初日は、大きな行事などもなく、いつもと同じように授業がありました。しかし、アリヤは、「5年生になったら4年生の時よりもがんばる!」と決意を新たにしていました。アリヤは努力家で、勉強にも一生けんめいに取り組んでいます。4年生のとき、優等賞をもらいましたが、クラスで一番ではなかったもので、5年生になったらクラスで一番の成績を取ろうと心に決めました。そのため、夏休みには協力センターが実施する、英語と算数の補習クラスに参加しました。



(左)皿洗いをするアリヤ。水は井戸から汲みます。(右)とても仲の良い家族。お父さんはキダバワン市内で床屋をしています。お母さんは住民組織の会計担当です。お兄さんはハイスクール生。



アリヤが今まで学校からもらった優等賞などのメダル。家の壁にかけ、励みにしています。

この日も家に帰ってお手伝いを済ませると、早速教科書を開いて勉強を始めました。なぜそんなに一生けんめい勉強するのかと訊ねると、アリヤは、将来の夢について教えてくれました。「学校の先生になりたいんです。小さい子どもに教えることが好きだし、学校へ通えない貧しい子どもたちのために、何かできるような人になれたらいいな、と思うから。そのためにも、今できることをがんばろうと思います。」

スリランカから vol.16 アーユボーワン



アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」

学校教育だけじゃない!
～就学前から卒業後まで～

こんなふうにも活かされています、スポンサーのご支援 ② 就学前編

乳幼児期(0～5歳)のチャイルドたちへの支援の一つに「家庭菜園」があります。「家庭菜園」は一見、乳幼児の成長と結びつきがないようにも見えます。しかし、現金収入が限られ、十分な食糧を購入することが難しい家庭では、「家で収穫した野菜」があることで栄養のある食事を確保することができます。スポンサーシップ・プログラムでは、家庭でも新鮮な野菜や果物を摂れるよう、親たちに家庭菜園を推奨し、必要な道具を提供する支援も行っています。

子どもの健全な発達のためには、栄養を摂取するだけでなく、適切な刺激(運動・感覚・視覚・聴覚・言語)も必要です。そのため乳幼児期のチャイルドたちの成長を促したり、子ども同士で遊ぶことで社会性を育むことができるよう、「就学前教育」(Early Childhood Development)を実施しています。

幼い子どもたちに丈夫な体と安心を届けることが、私たちの願いです。



小さな子どもも夢中で遊びます。



うちでとれた野菜はおいしいの。

ネパールから ナマステ! vol.12



ナマステ:ネパール語で「こんにちは」

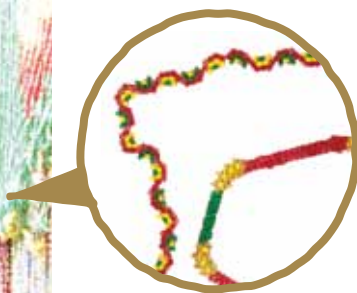
いつまでも元気でいてね。

ネパール暦第4の月、サウン月(日本では7月中旬から8月中旬)に、夫の長寿と健康を願って妻が断食をするヒンズー教の習わしがあります。この月の毎週月曜日、妻は卵、米、肉、塩、菓子類を断ち、ヒンズー教の神様であるシヴァ神に、夫の長寿と健康を祈ります。また、夫を想う証として赤・黄・緑のものを身につける習慣があります。

ネパールの女性の多くは、装身具としてビーズのネックレスやブレスレットを身につけていますが、カトマンズの中心部のタメル地区の狭い一角に、こうしたビーズのネックレスなどを扱う問屋街があります。人ひとりが出し入れがやっと通れるような横丁に、間口半間ほどの小さな店がひしめき合い、この時期は特に、赤・黄・緑の配色のネックレスが店頭に並べられます。



狭い間口にびっしりビーズがかけてあるお店



長寿を願った赤・黄・緑のネックレス

「妻は夫のために断食するけれど夫はしないの?」とネパール事務所の女性スタッフに尋ねたところ、夫はそんなことしない、と苦笑。ネパールは、まだまだ男性上位の社会なのです。

(支援者サービスグループ/米山 幸代)

free^B

～子どもへの暴力のない世界を目指して～

チャイルド・ファンド・ジャパンは、世界で10万人を目標に署名を集めています。子どもたちへの暴力と搾取のない世界に変えなくては!という思いに賛同してくださる方は、下記URLから、署名のご協力をお願いいたします。

<http://jp.freefromviolence.org/>



ミレニアム開発目標(MDGs)の達成期限である2015年を控え、世界各国では、世界の貧困解決のための目標を新たに定める動きが活発になっています。

しかし、子どもたちへの暴力と搾取のない世界を目指すという目標は、ミレニアム開発目標には含まれていません。

- 世界では、子どもの約半数が8歳になるまでに何らかの暴力を受けています。
- 児童労働に従事する推定2億1,500万人の子どもたちのうち、1億1,500万人は危険な労働に従事させられています。
- 毎年1億5,000万人の少女と7,300万人の少年が性的暴力の被害にあっています。

チャイルド・ファンド・ジャパンが加盟するチャイルド・ファンド・アライアンスは、この問題を次の世代に持ち越すことはできないという強い思いから、子どもたちへの暴力と搾取のない社会づくりを各国政府に働きかける国際キャンペーンを開始しました。

どうぞ署名にご協力ください。



支援プロジェクト 情報 28

子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

- 協力期間:2011年4月1日～2016年3月31日
- 支援対象:ラメチャップ郡の3カ村の公立16校(小学校と中学校)に通う生徒(約2,800人)と保護者、教員(103人)、学校運営委員会のメンバー(152人)、PTAのメンバー(151人)
- 協力団体:RBPW (Ramechhap Business & Professional Women)
* ネパールの山間部ラメチャップ郡を拠点とするNGO。女性と子どもの権利推進を目標に活動を行なう。

- 【フィリピン】
・協同組合強化支援プロジェクト
- 【ネパール】
▶ 子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト
・新事業地スタートアッププロジェクト

今年度の活動の1つとして、ランプール村のゴルマダング小学校の新校舎建設を進めています。学校には、現在幼稚部から小学校5年生まで合計110名の生徒が在籍しており、6名の教師がいます。校舎は3棟ありましたが、そのうち1棟は老朽化し、トタン屋根から雨漏りするだけでなく、梁の一部が腐り、崩壊の危険がありました。また、窓が小さいため教室が暗く、土壁に教材を掲示することもできませんでした。学校運営委員会*と教師、保護者、地域住民たちとの会議を重ね、この1棟を取り壊し、トタン屋根、レンガ・セメント

作りの3教室の新校舎を協働して建設することになりました。総工費は約110万円でプロジェクトがその約7割を負担し、残りは資材と労働というかたちで学校と地域住民が負担します。工事は5月から始まり、私が訪問した7月末現在、基礎工事がほぼ終わり、建物の梁の組み立て工事が開始されていました。炎天下、村人たちが汗水ながしながら土地を平らにするため鍬(くわ)で土を削っていました。大きな石がでてくるため、取り除くのに時間がかかり、基礎工事が遅れています。順調に工事が進めば校舎は11月末に完成し、小学3～5年生が使用する予定です。

7月時点の建設状況



↑ 崩壊の危険性のあった教室

(ネパール事務局長 田中 真理子)

* 保護者や校長、地域の有識者や村役場関係者から構成される委員会で、公立校の運営を行う責任を負っています。

ユニークな支援方法のご紹介

チャイルド・ファンド・ジャパンは、企業の皆さまからも、スポンサーシップ・プログラムによるご支援、支援プロジェクトへのご寄付、書き損じハガキの収集など、沢山のご協力をいただいています。

今回は、ユニークな方法でご協力くださる2つの企業をご紹介します。どちらも、それぞれの企業活動をいかして、企業のお客さまも、支援を受けるチャイルドもハッピーになる支援方法です。



オーガニックキッズシャンプーでチャイルドを支援

笑顔を送らせるZACCA SHO-BI

化粧品を含む化粧雑貨、服飾雑貨、及びキャラクター雑貨などの企画・製造・販売を行うSHO-BI株式会社は、オーガニック植物を原料とする子ども向けのシャンプー「Stellina(ステリーナ)」を販売しています。ステリーナの売り上げの一部が、スポンサーシップ・プログラム支援としてチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付され、現在10名のチャイルドがご支援を受けています。

展示会にお伺いして、商品企画部の城戸さんにお話を伺いました。

「ステリーナはお子様のデリケートな肌と髪質を考え、天然原料にこだわって作られた、お子様にも地球にもやさしいオーガニックシャンプーです。売り上げの一部がチャイルド・ファンド・ジャパンを通してアジアの貧しい子どもたちの教育支援に使われるので、アジアの子どもたちにとってもやさしいシャンプーと言えますね。」

イタリア生まれのキッズ用オーガニックシャンプー「ステリーナ」は、SHO-BIオンラインストアやアマゾンなどの通信販売サイトでも購入することができます。是非チェックしてみてください！

<http://www.sho-bionlinestore.jp/lp66.html>

SHO-BIは、かわいい・楽しい・便利な雑貨を小売店の売場に直接お届けする総合企画メーカーです。詳しくはこちらから → <http://www.sho-bi.jp/index.html>



青リンゴとピーチの二種類の香りがあります。また、キャラクターを使い、可愛らしさや楽しさも大切にしています。(展示会場にて)



マッチングギフトになるチャリティークーポン!

おトクなクーポンサイト くまポン by GMO



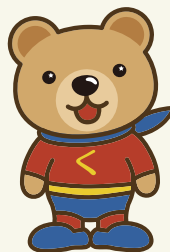
GMOインターネットのグループ会社が運営する割引クーポン共同購入サイト「くまポン by GMO」は、グルメや宿泊、レジャーなどのお得なクーポンを購入することができるサービスです。その中で、チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシップ・プログラムへの寄付となる、チャリティークーポンを販売してくださっています。

1枚100円のチャリティークーポンを購入(寄付)すると、GMOインターネットから同額の100円がマッチング(抛出)され、合わせて200円がチャイルド・ファンド・ジャパンに寄付される仕組みです。ご寄付はスポンサーシップ・プログラムのために活用されます。是非チェックしてみてください!

チャリティークーポンの購入(寄付)はこちらから

<http://kumapon.jp/117/cam20130809kpd017060>

「くまポンby GMO」は全国47都道府県のレストランやホテル・旅館・エステ、レッスン、商品などを通常の半額以下で購入することができる、お得な割引クーポン共同購入サイトです。(運営:GMOくまポン株式会社) 詳しくはこちらから → <http://kumapon.jp/>



おトクなクーポンサイト
くまポン
by GMO



■■■■■■■■■■「貧しさの連鎖」を断ち切る■■■■■■■■■■

夏の特別募金キャンペーンへのご協力をお願いします

皆様には、7月よりフィリピンの「協同組合強化支援プロジェクト」へのご支援をお願いしています。7月31日現在、3,329,451円(448口)のご協力をいただいておりますが、目標とする450万円にはまだまだ届いていません。「貧しさの連鎖」を断ち切るため、ご支援を心よりお願い申し上げます。

協力センター41の活動地域のカバトゥアン町では、スポンサーシップ・プログラムの支援をうける子どもたちの親、約100人が中心となって、カバトゥアン・インマニエル多目的協同組合(CIMCO)を2000年に設立し、今では組合事務所の建設用地を自前で取得するまでになりました。

フィリピンでは月利20%の高利貸しが多く存在し、貧しくて担保を差し出せない人々はやむを得ず高利貸しから借金をします。そして返済できずに借金地獄に陥る人も大勢います。CIMCOはメンバーに少額融資を行い、さらに医療保険や奨学金の支給など幅広い活動をしています。このプロジェクトでは、組合の活動がさらに広がるよう組合事務所建設を支援します。さらに多くの方が「貧しさの連鎖」から解放されるために、ぜひ「協同組合強化支援プロジェクト」にご協力ください。



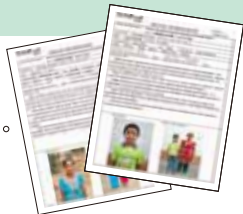
※既に今回のキャンペーンにご寄付をくださった方にも払込取扱票を同封しています。ご容赦くださいますよう、お願いいたします。

インフォメーション コーナー

お知らせ

ネパールのチャイルドの成長記録 発送しました

ネパールのチャイルドをご支援くださる皆さまには、チャイルドの成長の記録を8月下旬より順次お送りしています。チャイルドたちや親たちは、プログラムに参加することによって自分の考えや意見を言うことができるようになってきました。また、チャイルドたちの学習への意欲も高くなってきており、学校の出席率も全体的にあがってきています。どうぞ1年のご支援の成果をご覧ください。



お知らせ

今年も「グローバルフェスタ JAPAN2013」に参加します!

国際協力に関わるNGO、政府機関、企業などが一堂に会する「グローバルフェスタJAPAN2013」に今年も参加します。総勢約10万人が来場する国内最大級の国際協力イベントで、チャイルド・ファンド・ジャパンは、フィリピンやネパールでの支援活動について最新情報を含めてご紹介いたします。是非ブースにお立ち寄りください!



昨年の様子。チャイルド・ファンド・ジャパンのブースにも多くの支援者・参加者の方々が訪れてくださいました。

お知らせ

クラシックコンサートの会場で募金が行われます

「高嶋ちさ子 12人のバイオリニスト」は、台風で被災したフィリピンの50名の子どもたちをスポンサーシップ・プログラムを通して支援するため、9月から12月まで日本各地で行われるコンサートの会場で募金をしてくださいます。募金目標は480万円です。募金チラシをご覧ください、ぜひお近くの会場に足をお運びください。

<場 所> 日比谷公園(東京・千代田区)

<開催日> 10月5日(土)・6日(日)

詳細はこちらから <http://www.gfjapan.com/>

ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ <チャイルド・ファンドだより SMILES> 2013年9月発行

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信 事務局長 小林毅
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

<デザイン>
モスデザイン研究所
<印刷>
有限会社東西印刷

